長洲町立長洲小学校　校長便り　No.１０４

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年７月３日(月)

徒然

通勤途上、季節の移ろいを感じています。植木町では狭い土地や傾斜地に工夫して稲作がされていて、田植えの真最中です。玉名バイパス付近では、菊池川周辺に田植えが終わった田んぼがとても壮麗です。２０８号線から長洲町方面に左折すると、緩やかにカーブする道沿いに田んぼが広がっています。

雨が多い季節ではありますが、それでも自然の恵みや多くの人々の頑張りによって、私達の食生活や文化が成り立っているのだなと感じるひと時です。

稲作の大変さは「除草」だと聞いたことがあります。梅雨が明けると暑さも相まって大変な作業になるそうです。田んぼは一面濃い緑となって、夏の活力を感じる季節です。

そして、秋には収穫となるわけですが、秋は一面黄金色、収穫の時期は温かな気持ちになります。

通勤や登校にかかる時間は、どちらかというと生産性はあまり高くないのかもしれません。でも、考え方によっては心の生産性を高める時間になるのではないでしょうか。私は通勤を楽しんでいます。

【雑感】仲間の噂を聞いた時!?

私には人の噂が気になって仕方がない時期がありました。今でもそうかもしれません。自分の噂であれば尚更です。でも、最近やっと「言いたい奴には言わせておけ!」という気持ちになってきました。併せて、自分で見たものや感じたことを信じるようになってきました。なぜそんな気持ちになってきたかというと、ある中国の古典の文書に触れたからです。それは「菜根譚」（洪自誠）という本です。私は書道を嗜みますので、その題材をこの菜根譚からよく選びます。その中の一つにこんな文章がありました。

「悪を聞きては、就（そのまま）には悪（にく）むべからず。」悪い情報（良い情報も同じ）は、それを鵜呑みにしてはならない。確かな情報かを慎重に判断する必要がある。私はその様にとらえました。

この文章を長洲小学校の子供達にメッセージとして伝えるために、深読みしてみました。菜根譚を書いた洪自誠さんは、子供達にはこう伝えるのではないでしょうか。

「悪い噂は、ある人を陥れるために、その人を嫌っている誰かが流しているかもしれない。良い噂だって、ある人が自分をアピールするために、自分で流している可能性もある。つまり、噂って本当かどうかわからないものなんだ。そんな意地悪な人やズルい人が流す噂を、そのまま信じたらダメだよ。信じてしまうと、君が周りの人のことを正しく判断できなくなってしまうかもしれないからね。」

実際の場面を想像してみましょう。A君が悪い噂を流し、B君C君の友情を壊そうとしています。B君に向かって「B君の性格って最低!ってC君が言ってたよ。」次はC君に向かって「C君ってダサいよねって、B君が言ってたよ。」もし、B君C君が子の噂を鵜呑みにして信じてしまったら…?もう想像できますよね。

何でもかんでも疑うのは疲れるかもしれませんが、噂との付き合い方は疑い過ぎるくらいが丁度良いと、私は思っています。そして何より、自分で見たものや感じたこと、それまでに得た知識や情報を基にして判断することが大切であり、情報が足りなければ、更なる情報収集に取り組めば良いのです。付け加えですが、情報収集の手段はたくさんありますが、私のお勧めはやはり「読書」です。読書に親しみ、多くの情報を収集して欲しいものです。

シリーズ「自分を語る」#１０４

それまでの学級の実態を聞き、余計に「やってやる!」と闘志が沸いた澤田です。兎に角、すべてを一からやり直しです。私の頭の中で構想は出来上がっているのですが、それをやってしまっては、自治の下地はできません。子供達に任せることから始めます。当然、軌道修正はしますがね。先ずは子供達に問いました。子供達はこれまでの自分達に嫌気がさしていましたが、閉塞感のある学級の中で、「諦め」にも似た雰囲気が漂っていました。そして、腕力にものを言わせ、あるいは派閥にものを言わせて学級を牛耳る者が存在し、正義や真面目という価値が認められなくなっていて、明らかに「居場所」からは程遠い状況でした。んで、私から一言…。

「どんな学級にしたい?」

思いを「ぼそっ、ぼそっ」と呟く子供達、でも次第に「言ってもいいんだ。」って雰囲気になり、心の中に残っていた正義感が首をもたげてきました。そして、私は担任として何をしたか? それは、真面目に意見を出した者、正義感や規則を尊重して発言した者を笑ったり馬鹿にしたりする者に対して、徹底的に指導し、向き合い、明確な言動の変化を求めました。そして、その事を学級全体に問うことを忘れませんでした。

「ルール違反や我がままを許していいのか?」

学級開きから1週間、劇的に変化しました。というより、実は2日目から激変していたのです。その理由は、以前の伊倉小学校勤務が影響していました。一昨年までの勤務で、私は自覚していなかったのですが、目に見えない信頼関係ができていたのです。私は担任教師時代、常に保護者に対してはこう言っていました。

「学校、保護者、地域は三位一体です。子供達の成長は、3者の連携です。」

平成21年度は、私自身に不安もありました。「今年は怪我して帰ることもあるかな…」なんてことを本気で思っていましたから。でも、目の前の子供達から目を背けることは、これまで自分がやってきたことに反します。ま、かっこよく言えば、私のポリシーです。手のかかる子達は、その行動を通して私達にサインを発していることが多く、それに寄り添うことができない教師は、間違いなく手上げ状態になります。逆にそのサインに正面から向き合い、課題解決のために食らいつく教師は、卒業後にも長い付き合いができます。どういうことかというと、子供本人を好きだからこそ、将来を思うからこそ、目の前の課題を放ってはおけず、厳しい指導になる訳です。課題ではなく子供自身を嫌ってしまうと、信頼関係はいつまで経っても出来ません。

すっかり話が反れましたね。子供達は一気に変化しましたが、それで何も行動目標が無ければ、時間を持て余し、自治が成り立たない可能性もあります。学級を切り盛りしていくために、3ヶ月スパンの目標とスモール・ステップを設定していました。そうそう、ナイトハイクです。ナイトハイクに加え、更なる仕掛けを施していくことになりました。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）